

許容濃度など有害物の管理に使われる数値指標

2020. 10

2024. 12

	許容濃度	管理濃度	濃度基準値
定義	労働者が1日8時間、週40時間程度、肉体的に激しくない労働強度で有害物質にばく露されている場合、当該有害物質の呼吸域での平均暴露濃度がこの数値以下であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響が見られないと判断される濃度	作業環境管理を進める上で、有害物質に関する作業環境の状態を評価するために、作業環境測定基準に従って実施した作業環境測定の結果から作業環境管理の良否を判断する際の管理区分を決定するための指標	労働者が一定の時間内でばく露される程度を定めた基準値。 ばく露される程度を基準値以下にしなければならない ・8時間濃度基準値 ・短時間濃度基準値 ・天井値
対象物質	多くの物質	労働安全衛生法の特別則で定める物質	労働安全衛生法 告示で定める物質
法的拘束力	なし	あり 労働安全衛生法 作業環境測定法	あり 労働安全衛生法
提示元	日本産業医学会	厚生労働省	厚生労働省
主な使用例	・化学物質の有害性の程度の評価 ・作業環境程度の評価 ・保護具の使用判断	作業環境測定法に基づき実施した作業環境測定結果による作業環境の評価	ばく露程度が基準値以下であることを確認するための測定

その他の指標値

生物学的モニタリング値	例 尿中代謝物量 血中有害物質濃度 体内に蓄積された有害物の量を推定するための指標となる成分濃度。ばく露程度の指標になる
生物学的許容値	生物学的モニタリング値がその勧告値の範囲以内であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響がみられないと判断される濃度
最大許容濃度	作業中どの時間をとっても暴露濃度がこの数値以下であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響が見られないと判断される濃度＝5分程度までの短時間測定により得られる最大の数値
抑制濃度	有害物質の発生源付近における有害物質の濃度を、その値以下に抑えることによって、作業員のばく露の濃度を安全な水準に保つことを意図して定めた濃度 例；特定化学物質用局所排気装置の性能確認用濃度